

2016年1月15日

2016年 SUBARU モータースポーツ活動計画について

富士重工業と同社のモータースポーツ統括会社であるスバルテクニカインターナショナル株式会社*1は、2016年のSUBARU モータースポーツ活動についての概要を発表しました。

■ニュルブルクリンク 24 時間耐久レース

2008年から9年連続の出場となる第44回ニュルブルクリンク24時間耐久レース(ドイツ、5月26日～29日)に、WRX STIで出場します。昨年に2011年、2012年に続く3度目のクラス優勝を果たしたSP3T*2クラスで2年連続4度目のクラス優勝を目指します。

2016年の参戦車両は、水平対向エンジンの持つ低重心、バランスの良さを最大限に活かし、コーナーリングスピードを向上。車体の軽量化および慣性モーメントの低減、空力性能、フロントダウンフォースの向上、レギュレーションの変更によるリストラクターの小径化に適したエンジンのセッティング変更、さらには新タイヤの投入など、「速く」且つ、「意のままに操る」開発と改良を施しました。

車両開発およびチーム運営を統括する総監督は、昨年に引き続きSTIの辰己英治が務めます。

ドライバーは、昨年のクラス優勝メンバーを継続起用し、山内英輝選手(日本)、マルセル・ラッセー選手(ドイツ)、カルロ・ヴァン・ダム選手(オランダ)、ティム・シュリック選手(ドイツ)の4名体制で臨みます。

■SUPER GT シリーズ

日本国内最高峰のモータースポーツカテゴリーであるSUPER GTのGT300クラスに、SUBARU BRZ GT300にて参戦します。2016年の参戦車両は、2015年仕様車をベースに、ニュルブルクリンク24時間耐久レース参戦車両と同様、水平対向エンジンの持つ基本性能を最大限に活かし、コーナーリング性能とブレーキ性能を強化するために、フロントタイヤサイズを300/680R18から330/710R18へと変更。また更なる軽量化、空力性能の向上、小慣性モーメントの実現、エンジン性能の向上などを施しました。

チーム総監督はSTIの辰己英治が務め、チーム運営は、「R&D SPORT」(代表:本島伸次、神奈川県平塚市)が担当します。ドライバーは、井口卓人選手と山内英輝選手を継続起用します。

■グローバルラリークロス選手権

アメリカで人気のグローバルラリークロス選手権に参戦しているスバルラリーチームUSAに技術支援を行います。サーキットレース、オフロードレース、ラリーの要素を併せ持つ、この競技においてもニュルブルクリンクやSUPER GTで培ったノウハウをつぎ込み、スバルの水平対向エンジン、シンメトリカルAWDの優位性を実証していきます。2016年シーズンは、信頼性向上に重点を置いたエンジン開発、車体の軽量化、剛性の強化、慣性モーメントの最適化などの技術支援を行っていきます。

*1:スバルテクニカインターナショナル(株)(代表:平川良夫、東京都三鷹市、略称:STI)

*2:排気量2リットル以下のターボ車のクラス



SUBARU WRX STI NBR Challenge 2016



SUBARU BRZ GT300 2016